

2012 年 11 月の東北地方の天候

【 11 月の特徴 】

○日照時間が記録的に少なかった

○東北日本海側で降水量が記録的に多かった

(1) 2012 年 11 月の概況

期間の前半は、低気圧や気圧の谷の影響を受けやすかった。このため、曇りや雨の日が多く、東北日本海側を中心にたびたび大雨となった。期間の後半は、低気圧と高気圧が交互に通過し、低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置となった。このため、東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多かったが、周期的に晴れの日もあり、東北太平洋側では天気は数日の周期で変わった。気温は期間の前半は高温の日が多く、期間の後半は低温の日が多かった。月間日照時間は東北地方で平年比 74% とかなり少なくなり、1946 年の地域平均の統計開始以来少ない方からの 1 位を記録した。また、月降水量は東北日本海側で平年比 165% とかなり多くなり、1946 年の地域平均の統計開始以来多い方からの 1 位を記録した。

月平均気温は平年並。月降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。月間日照時間はかなり少ない。

(2) 各旬の天候経過

上旬：この期間、低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。期間のはじめは寒気の影響で低温となったが、その後は南から暖かい空気が入り高温となった。

1 日から 3 日にかけては、低気圧が日本海を北東進し、その後冬型の気圧配置となった影響で、東北日本海側を中心に大雨の所があった。6 日から 10 日にかけては、低気圧が日本海から北海道付近にゆっくり進んだ影響で、各県で大雨の日があった。

平均気温は高い。降水量は東北北部でかなり多く、東北南部で多い。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。

中旬：この期間、低気圧が数日の周期で通過し、低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置となった。東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多かった。東北太平洋側では低気圧の影響で曇りや雨の日が多かったが、冬型の気圧配置で晴れた日もあった。

12 日から 15 日、17 日から 18 日、20 日は、低気圧が東北地方付近を通過し、その後冬型の気圧配置となった影響で、東北日本海側を中心に大雨の所があった。

平均気温は東北北部で高く、東北南部で平年並。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。日照時間は少ない。

下旬：この期間、低気圧と高気圧が交互に通過し、低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置となった。東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多かったが、周期的に晴れの日もあった。東北太平洋側では天気は数日の周期で変わった。

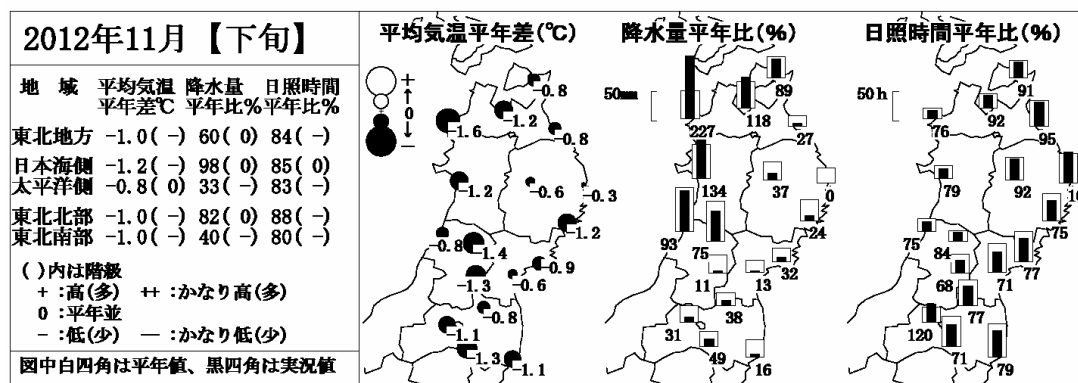
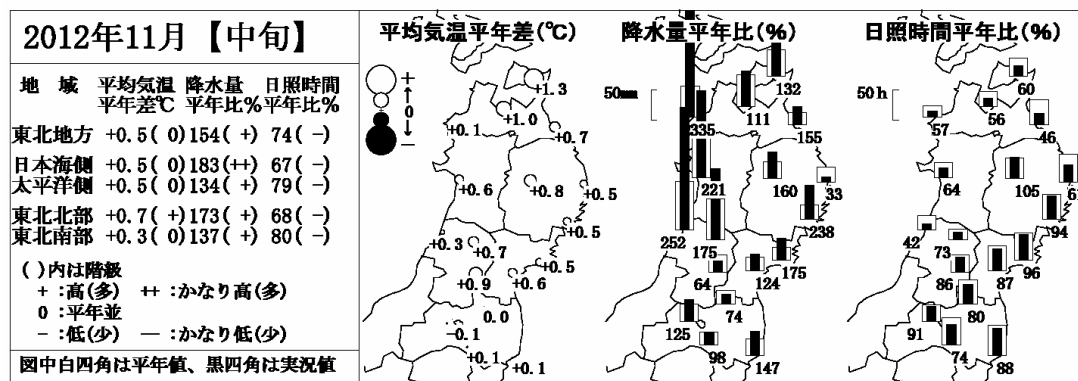
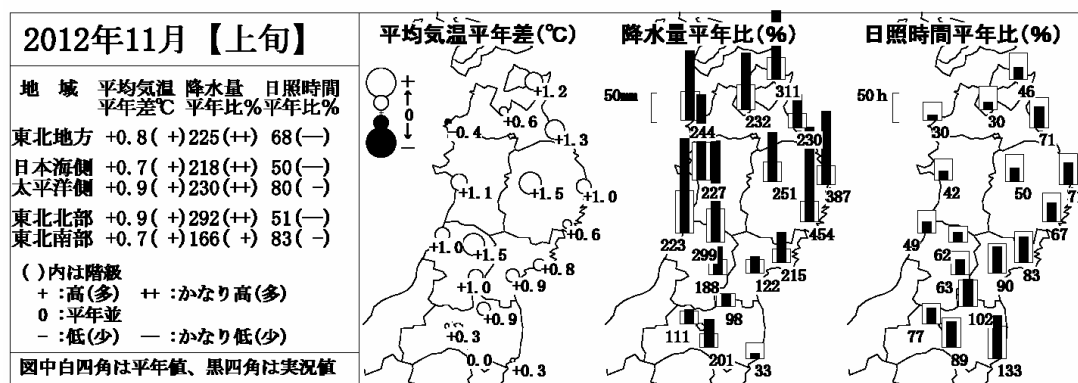
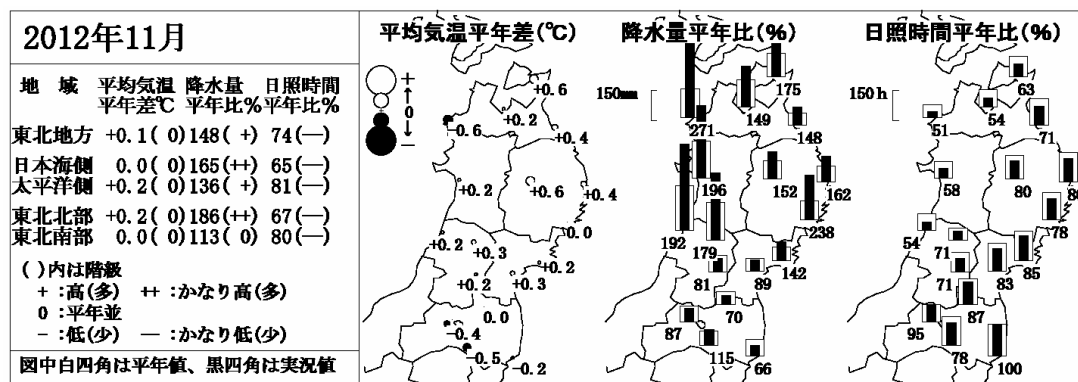
23 日、26 日、29 日は、低気圧や寒冷前線が東北地方付近を通過した影響で、東北日本海側で大雨の所があった。

平均気温は東北日本海側で低く、東北太平洋側で平年並。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。

(注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています(速報値)。
細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は 1981～2010 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2012年11月の月・旬平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比



平年値の統計期間は1981～2010年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2012 年 11 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級			降雪深さ(平年値)階級		最深積雪(平年値)階級	
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			(h)	(%)		(cm)	(cm)	(cm)	(cm)
青 森	7.0	(+0.2)	○	205.0	(149)	+*	23	47.1	(54)	—*	14	(32)	—	5 (17) —
深 浦	7.1	(-0.6)	—	398.5	(271)	+*	24	32.9	(51)	—*	—	(9)	—*	— (3) —*
む っ	7.1	(+0.6)	+	205.0	(175)	+*	19	65.1	(63)	—*	—	(18)	—*	— (7) —*
八 戸	7.3	(+0.4)	○	91.5	(148)	+	11	94.4	(71)	—*	1	(6)	○	1 (2) ○
秋 田	8.1	(+0.2)	○	364.5	(196)	+*	23	48.1	(58)	—*	—	(11)	—	0 (4) —
盛 岡	6.5	(+0.6)	+	137.0	(152)	+*	15	93.3	(80)	—*	3	(10)	—	3 (5) ○
大 船 渡	8.3	(0.0)	○	224.0	(238)	+*	9	105.4	(78)	—*	—	(2)	○	— (1) ○
宮 古	8.2	(+0.4)	○	129.5	(162)	+	6	117.4	(80)	—*	—	(0)		— (0)
仙 台	9.7	(+0.3)	○	58.0	(89)	○	8	115.7	(83)	—*	—	(0)		— (0)
石 巻	8.7	(+0.2)	○	94.5	(142)	+	7	125.1	(85)	—*	—	(1)	○	— (1) ○
山 形	7.6	(+0.2)	○	68.5	(81)	○	14	70.5	(71)	—*	—	(10)	—	0 (5) ○
新 庄	6.7	(+0.3)	○	337.5	(179)	+*	25	44.4	(71)	—*	3	(22)	○	1 (10) ○
酒 田	9.5	(+0.2)	○	431.0	(192)	+*	25	44.3	(54)	—*	—	(8)	—	— (3) —
福 島	9.2	(0.0)	○	46.0	(70)	○	10	111.9	(87)	—*	—	(1)	○	— (1) ○
若 松	6.7	(-0.4)	○	68.5	(87)	○	17	82.1	(95)	○	—	(6)	—	— (3) —
白 河	7.3	(-0.5)	—	80.5	(115)	○	6	113.3	(78)	—*	—	(2)	○	— (1) ○
小 名 浜	10.9	(-0.2)	○	54.0	(66)	—	7	160.5	(100)	○		()		()

(注) 1. 平年値は 1981～2010 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1981～2010 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1981～2010 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「+」に * を付加した。この場合には

かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

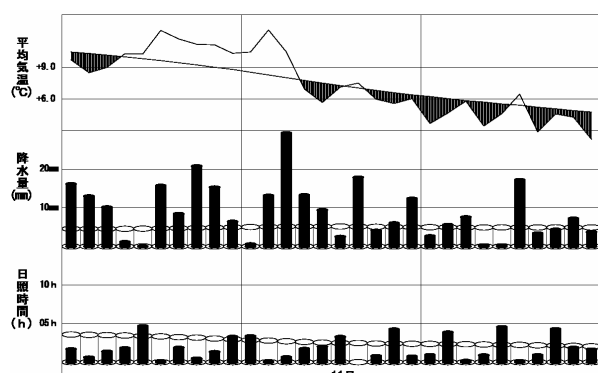
と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

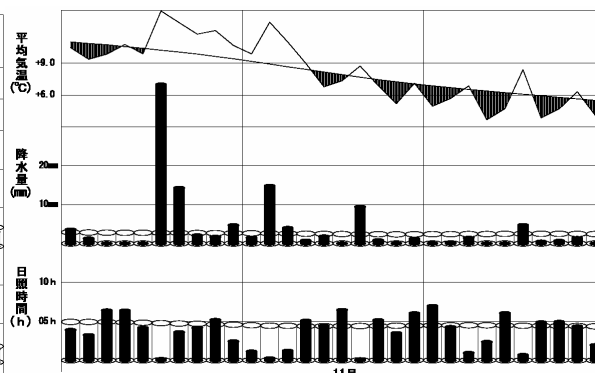
3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

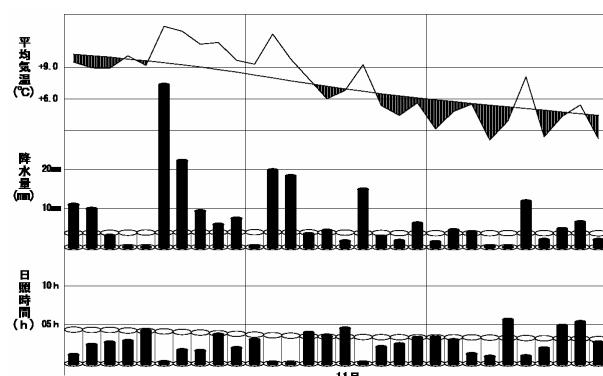
(5) 2012 年 11 月の日別経過図



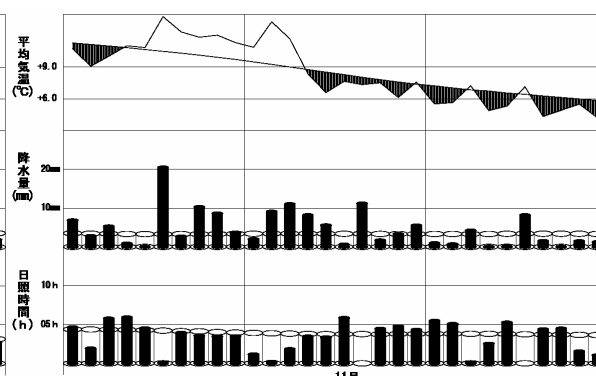
東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図



東北北部の日別経過図



東北南部の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）
気温の陰影は平年値より低いことを示す。

(6) 2012 年 11 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	深浦	398.5	271	282.5 (1972)	1940	146.9
	秋田	364.5	196	341.5 (1922)	1882	185.8
	酒田	431.0	192	390.0 (1985)	1937	225.0
2	新庄	337.5	179	415.0 (1973)	1957	188.7

月降水量少ない方からの順位更新

3 位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新
3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	むつ	65.1	63	74.6 (2002)	1935	102.9
3	八戸	94.4	71	67.8 (1953)	1936	133.3

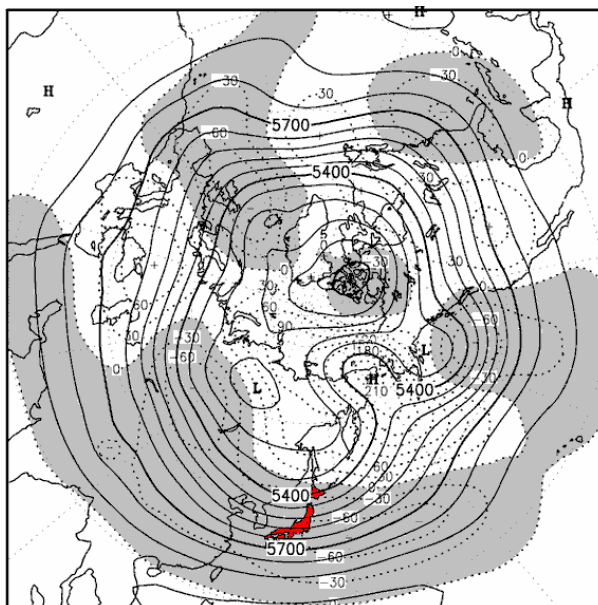
降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新
3位以内はなし

月最深積雪大きい方からの順位更新
3位以内はなし

(7) 2012 年 11 月の循環場の特徴

500hPa 高度は、日本付近の中緯度帯は帯状に負偏差だが、東シベリアを中心に正偏差が北海道付近まで広がった。北日本付近の高度線の間隔が平年より広く、低気圧が北日本付近をゆっくり通過しやすかった。

東北地方は、期間の前半を中心に低気圧や気圧の谷の影響を受け、曇りや雨の日が多く、東北日本海側を中心にたびたび大雨となった。



2012 年 11 月の平均 500hPa 高度

実線は高度(m)、間隔 60m。点線は偏差(m)、間隔 30m。
陰影部は負偏差 (寒気に対応)。

(8) 2012/2013 年寒候期 季節現象

12 月 3 日現在の状況

2012/2013 年寒候期 季節現象(初日)									
官署名	初 霜			初 氷			初 雪		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
青森	10. 27	10. 29	10. 28	11. 22	11. 3	11. 18	11. 18	11. 6	11. 15
秋田	11. 22	11. 11	11. 18	11. 22	11. 17	11. 18	11. 18	11. 13	11. 15
盛岡	10. 27	10. 22	11. 10	11. 11	10. 27	11. 10	11. 18	11. 8	11. 15
仙台	×	11. 10	11. 18	11. 27	11. 21	11. 26	11. 27	11. 24	12. 1
山形	10. 30	10. 30	11. 10	11. 17	11. 1	11. 11	11. 21	11. 18	11. 16
福島	11. 19	11. 9	11. 18	11. 19	11. 14	11. 27	11. 27	11. 26	12. 9

(注) 本年の仙台の初霜は、積雪によって霜が観測できなかった期間があり、欠測(×)となった。

初冠雪									
山岳名	海拔 (m)	本年	平年	昨年	山岳名	海拔 (m)	本年	平年	昨年
ハッコウダサン 八甲田山	1585	10. 19	10. 17	10. 3	ガンドサン 雁戸山	1485	11. 2	10. 29	11. 10
イワキサン 岩木山	1625	10. 24	10. 21	10. 3	リュウザン 瀧山	1362	11. 2	10. 30	11. 15
タイヘイザン 太平山	1171	11. 14	11. 2	11. 15	イズミガタケ 泉ヶ岳	1175	11. 15	11. 6	11. 16
イワテサン 岩手山	2038	10. 13	10. 13	10. 2	ザオウザン 蔵王山	1841	11. 3	10. 24	10. 4
ガッサン 月山	1984	10. 24	10. 18	10. 3	アツマヤマ 吾妻山	1949	11. 2	10. 23	10. 3
アサヒダケ 朝日岳	1871	10. 24	10. 22	10. 3					

(注) 蔵王山は熊野岳、吾妻山は一切経山の標高を示す。

(9) 2012 年 11 月の記録的に少ない日照時間と記録的に多い降水量の状況

東北地方では、11 月は低気圧や気圧の谷の影響を受けやすく、降水量は東北日本海側でかなり多く、日照時間はかなり少なかった。地域平均の統計で、月降水量は東北日本海側で平年比 165%と 1946 年以来多い方からの 1 位を記録し、月間日照時間は東北地方で平年比 74%と 1946 年以来 2002 年に並び少ない方からの 1 位タイ記録となった。特に 11 月の前半は、東北日本海側を中心に日照時間の少ない日が続き、たびたび大雨となった（4 ページの日別経過図）。

今年の月降水量が 11 月として多い方からの 3 位以内になった観測地点数、今年の月間日照時間が 11 月として少ない方からの 3 位以内になった観測地点数は表 1 のとおりで、青森県、秋田県、岩手県ではほとんどの地点で、山形県と宮城県ではほぼ半数の地点で 3 位以内となった。

図 1 は 11 月の月平均海面気圧で、平年はオホーツク海の低気圧から西に向かってバイカル湖付近にのびる気圧の谷と南西に向かって朝鮮半島付近にのびる気圧の谷があり、これらの気圧の谷に沿って低気圧が通ることが多い。今年の 11 月は北日本付近で月平均海面気圧が平年より 4hPa 低かった。このことは、オホーツク海の低気圧が千島付近で発達したことや、千島付近から朝鮮半島付近にのびる気圧の谷に沿って低気圧が発達しながら通過することが多くなったことを表している。このため、東北地方では記録的に降水量が多くなり、記録的に日照時間が少なくなった。

表 1 11 月として月降水量が多い方からと月間日照時間が少ない方からの統計開始以来 3 位以内になった観測地点数。かっこは総地点数。統計開始年は観測地点ごとに異なる。

	青森県	秋田県	岩手県	宮城県	山形県	福島県
月降水量	20 (30)	35 (36)	23 (49)	5 (28)	12 (28)	4 (39)
月間日照時間	19 (22)	23 (24)	25 (33)	10 (18)	11 (20)	9 (29)

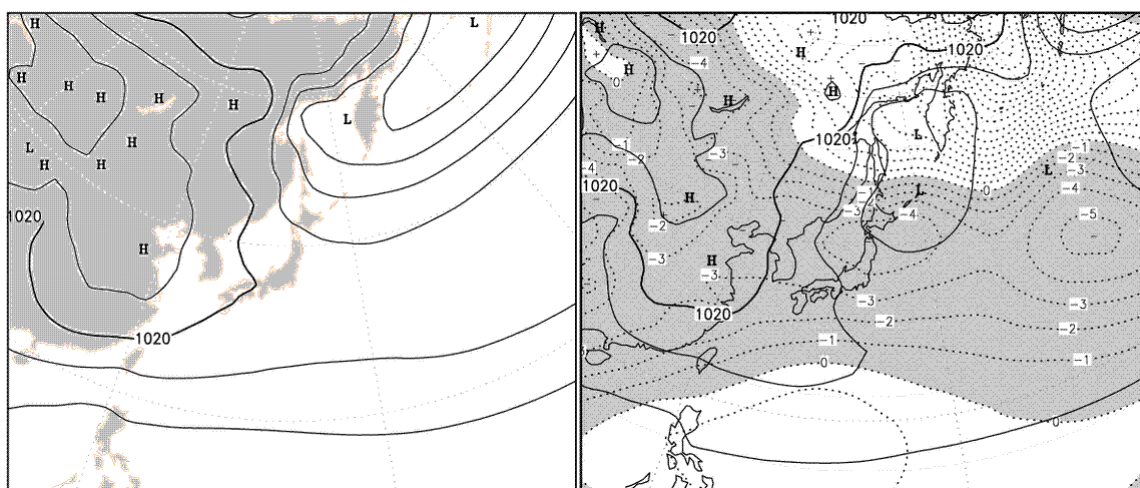


図 1 11 月の月平均海面気圧。左は平年値、右は 2012 年 11 月。実線は海面気圧 (hPa)、間隔 4hPa。右の点線は平年偏差 (hPa)、間隔は 1hPa。右図の陰影は平年より気圧が低い領域。

社会的に影響の大きい天候に関する東北地方気象情報の発表状況

平成 24 年 11 月 14 日 13 時 30 分 東北北部の長雨と日照不足に関する東北地方気象情報
第 1 号